学　年	教科等	題材名	日　時
第４学年	音楽科	森の音楽をつくろう	令和４年１月 19 日(水) ５校時

○　子どもの姿からの報告

研究内容　１　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴　協働的な学びをとおして音楽に対する感性を育む授業の展開

森の情景に合った音色を見付ける段階で、子どもはペアで楽器や奏法を試行錯誤しながら選定していく。その際、学習形態を工夫し、全体で様々な表現を確認した後、グループで再度音色を検討することができるようにした。

①　ペアで音色探し

どの鳴らし方がよいかな。

川は場所によって音が違うね。ジャブンとかさらさら～とかいろいろな音色があるね。

シェーカーを速く横にふると、しゃぱしゃぱした勢いのある音色になるね。

おもしろいね。じゃあ、まねっこしてみようかな。２回繰り返すとおもしろいよ。

②　全体で共有

音色探しの様子を見て、奏法を工夫しながら思いに合った音色を見付けたペアを全体の場で紹介し、その音色のよさを共有した。

もみじが風に流され、他の葉っぱにあたって優しく流れていくのをイメージしました。
（このペアの学習プリントの記述より抜粋）

マラカスでこんなにも繊細な音色が出せるのですね。マラカスのイメージが変わりました。

マラカスを下向きにして、そっと回したり縦に振ったりすると、葉っぱが流れていくような優しい音色になるね。

③　グループでの話合い

②でのマラカスの鳴らし方を参考にして、下向きにし、優しく回してみるとどんな音色になるか、試している子どもの姿が見られた。

また、写真中央の子どものように、全体で共有したマラカスの持ち方に注目し、「じゃあ、この持ち方ならどうかな。」と全体で共有したことから、発想を広げていく学びの姿が見られた。

この楽器でも、さっきのような鳴らし方だったら、さらさらと静かで優しい音色になるね。

仲間と音楽をつくって感じたこと

- 落ち葉がふまれてザクザクなる音を表現しました。マラカスの丸い部分を手で包んで、ゆっくりふりました。一人だったら考えつかなかったと思うので、たくさんの人と共有するのは、大切だな、と思いました。
- 最後に、チームのみんなで森の音楽をつなげました。それぞれちがう楽器でもつながっているような感じで、とてもよい森の音楽になりました。

（子どもの日記より一部抜粋）

⑵　音楽科と学びをつなぐ教材の工夫

第１時に「森にいる鳥たちの会話」を「ソラシレ」のなかの好きな音を使って、旋律づくりをした。その際「もういいかい」「まだだよ」のような日常の遊び歌の節に、「呼びかけとこたえ」があることを想起させ、この題材の前から常時活動として即興で旋律づくりをしてきた。抵抗なく、条件に基づいた音楽づくりができた。

○　考察

○　思いに合った音色を探す活動において、ペア→全体→グループと、学習形態を組み合わせて話し合いをさせることで、仲間の表現のよさを取り入れて表現の幅を広げる姿が見られた。教師がどのような表現を取り上げ、価値付けするか、評価の観点を明確にもちながら、子どもたちの活動の様子を見取る必要がある。

●　授業後の「ふりかえり」は大切だが、子どもがシートに記述するのに時間を要する。題材のなかでふりかえりシートを活用し、しっかりとふりかえりをする時は、評価計画と照らし合わせて精選する必要がある。

●　学習したことと日常とをつなぐためには、授業で取り上げたことを日常生活の様々な生活のなかで学びがつながった姿を見取り、価値付け、広げていくことが大切である。